主要な機関の発がん性評価の分類基準

(△はケースバイケースで判断)

	GHS		IARC	EU(CLP規則)	日本産業衛生学会		
1 A	ヒトに対する発がん性が 知られている(known) ○ヒトで、がん発生の因 果関係が確立された場	1	ヒトに対して発がん性がある(be) ○ヒトで、十分な証拠がある場合 △ヒトでは十分な証拠と言えないが、動物試験で十分な証拠があり、ヒトにおいて、関連する発がん作用機序を通して作用することを示す強固な証拠がある場合	G H S の基準を 使用	第 1 群	ヒトに対して発がん性 があると判断できる ○疫学研究からの十分 な証拠がある場合	
1 B	ヒトに対しておそらく発がん性がある (presumed) ○動物試験で十分な証拠がある場合 ムヒトでも動物試験でも証拠が限定的である場合	2 A	ヒトに対しておそらく発がん性がある (probably) ○ヒトで限定的な証拠があり、動物試験 で十分な証拠がある場合 △動物試験で十分な証拠があり、ヒトで も機能する作用機序による誘発を示す 強固な証拠がある場合 △ヒトで限定的な証拠がある場合		第 2 群 A	と発がる性がある比較 ・	
2	ヒトに対する発がん性が 疑われる (suspected) ○ ヒトに対する発がん性が 反われる (suspected) ○ ヒトに対する発がん性が 実験の証 小又は動物実験の証 があるないには かいたいが、ではないでは ないででは、 をフェールででは がある場合	2 B	ヒトに対する発がん性が疑われる (possibly) ○ヒトで限定的な証拠があり、動物試験 では十分な証拠があるといえない場合 △動物試験で十分な証拠がある場合 △動物試験で十分ではない証拠があり、 作用機序等からの証拠が一緒に得られている場合 △作用機序及び他の関連データに由来する強固な証拠がある場合		第 2 群 B	と発で十 〇 がい かで証合で 学限かい かの動が 分 が験で動が 分 が 分 が	

ACGIH		EPA (1986)		EPA (1996)		EPA (2005)		NTP	
A 1	確認されたヒト発がん 性因子 (confirmed) 〇疫学的研究からの証 拠に基づき、ヒトに 対し発がん性がある	А	ヒト発がん性因子 (be) ○疫学研究から 十分な証拠が ある場合	K/L	とれ高 とれ高 (known/likely) (known/likely) (known/likely) (known/likely) で完せがいもを学研組トれっ関の で学のといると示さい。 で学のといると示さい。 で学のといると示さい。 で学のといるといるとでは、 で学のといるといるといる。 で学のといるといるといる。 で学のといるといるといる。 で学のといるといるといる。 で学のといるといるといる。 で学のといるといるといる。 で学のといるといるといる。 で学のといるといるといる。 で学のといるといるといる。 で学のといるといるといる。 で学のといるといるといる。 で学のといるといるといる。	Ca H	と C A B B B B B B B B B B B B B B B B B B	К	ヒト発がん性因子で あることが知られて いる(knouwn) ○ヒトで、十分な証 拠がある場合
A 2	疑わ が が が が が が が が	В	おそらくヒト発 がん性因子 (probable) B 1 受 研究の 限力 で で で で が ある場合		ではいる場と関連さよ又れが ははいいきに関定に成され がいと用場が がいと用場が がいきに関定に成され がいきに関定に成され がいる場と関	L	ETO (likely) がも記と実場 性の (likely) があい (likely) があいばの間いれ生証 のががいがいなりが 物物は変数がが 物質の関大物拠 動統 物質の はいれき いいがい から はいい はいい はいい はいい はいい はい はいい はい はい はい はい	R	合性予 合性为 (reasonably anticipated) (reasonably anticipated) (中報 (中 (中 (中 (中 (中 (中 (中 (中
A 3	確性 を で関 を を を で を で に で に に に に に に に に に に に に に		B2 〇動物試験で十 分な証拠があ る場合		るため、ヒトでが んを生じる可能性 が高い場合		別、系統、部位 系統、部位 、系 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、		い十構しのに又をが通が分造、物該は誘高に、に関そ質当、発に可を類別とはいるとのにのは合が能序のがすとは、発いて、大人のにのは合が能序のがあるとのにのは合が能序のた属他Rのは合が能序のた属他Rのは合がに
A 4 A 5	(省 略)	CDE	(省 略)	CBD NL	(省 略)	S I NL	(省 略)		とを示す説得力の ある関連情報があ る場合

IARCの発がん性評価の基準の詳細

(1)評価区分の基準

IARCモノグラフ PREAMBLE(抜粋)	評価区分の基準の主な内容
The agent is described according to the wording of one of the following categories, and the designated group is given. The categorization of an agent is a matter of scientific judgement that reflects the strength of the evidence derived from studies in humans and in experimental animals and from mechanistic and other relevant data.	│分類は、ヒト及び実験動物による研究及び作用機序やその他の │関連
Group 1: The agent is carcinogenic to humans. This category is used when there is sufficient evidence of carcinogenicity in humans. Exceptionally, an agent may be placed in this category when evidenc of carcinogenicity in humans is less than sufficient but there is sufficient evidence of carcinogenicity in experimental animals and strong evidence in exposed humans that the agent acts through a relevant mechanism of carcinogenicity.	グループ1:ヒトに対して発がん性がある。 このカテゴリーは、ヒトにおいて「発がん性の十分な証拠」 があ る場合に用いられる。 ヒトにおいて十分な証拠があるとは言えないが、実験動物に おい て「発がん性の十分な証拠」があり、ばく露を受けたヒトにお いて、関連する発がん作用機序を通して作用因子が作用するこ とを示す強 固な証拠がある場合は、例外的に、このカテゴリーに分類され るこ とがある。
Group 2. This category includes agents for which, at one extreme, the degree of evidence of carcinogenicity in humans is almost <i>sufficient</i> , as well as those for which, at the other extreme, there are no human data but for which there is evidence of carcinogenicity in experimental animals. Agents are assigned to either Group 2A (<i>probably carcinogenic to humans</i>) or Group 2B (<i>possibly carcinogenic to humans</i>) on the basis of epidemiological and experimental evidence of carcinogenicity and mechanistic and other relevant data. The terms <i>probably carcinogenic</i> and <i>possibly carcinogenic</i> have no quantitative significance and are used simply as descriptors of different levels of evidence of human carcinogenicity, with <i>probably carcinogenic</i> signifying a higher level of evidence than <i>possibly carcinogenic</i> .	│る発 │がん性の証拠のある作用因子までが含まれる。

IARCモノグラフ PREAMBLE (抜粋)

評価区分の基準の主な内容

Group 2A: The agent is probably carcinogenic to humans.

This category is used when there is *limited evidence of carcinogenicity* in humans and *sufficient evidence of carcinogenicity* in experimental animals. In some cases, an agent may be classified in this category when there is *inadequate evidence of carcinogenicity* in humans and *sufficient evidence of carcinogenicity* in experimental animals and strong evidence that the carcinogenesis is mediated by a mechanism that also operates in humans. Exceptionally, an agent may be classified in this category solely on the basis of *limited evidence of carcinogenicity* in humans. An agent may be assigned to this category if it clearly belongs, based on mechanistic considerations, to a class of agents for which one or more members have been classified in Group 1 or Group 2A.

Group 2B: The agent is possibly carcinogenic to humans.

This category is used for agents for which there is *limited evidence of carcinogenicity* in humans and less than *sufficient evidence of carcinogenicity* in experimental animals. It may also be used when there is *inadequate evidence of carcinogenicity* in humans but there is *sufficient evidence of carcinogenicity* in experimental animals. In some instances, an agent for which there is *inadequate evidence of carcinogenicity* in humans and less than *sufficient evidence of carcinogenicity* in experimental animals together with supporting evidence from mechanistic and other relevant data may be placed in this group. An agent may be classified in this category solely on the basis of strong evidence from mechanistic and other relevant data.

Group 3: The agent is not classifiable as to its carcinogenicity to humans.

This category is used most commonly for agents for which the evidence of carcinogenicity is *inadequate* in humans and *inadequate* or *limited* in experimental animals.

Exceptionally, agents for which the evidence of carcinogenicity is *inadequate* in humans but *sufficient* in experimental animals may be placed in this category when there is strong evidence that the mechanism of carcinogenicity in experimental animals does not operate in humans.

Agents that do not fall into any other group are also placed in this category. An evaluation in Group 3 is not a determination of non-carcinogenicity or overall safety. It often means that further research is needed, especially when

グループ2A:ヒトに対しておそらく発がん性がある。 このカテゴリーには、ヒトにおいて「発がん性の限定的な証拠」

があり、実験動物において「発がん性の十分な証拠」がある場合に

用いられる。 いくつかのケースでは、ヒトにおいては「発がん性の不十分な証拠」で、実験動物ではは「発がれての十分な証拠」があり、かつことを示す強固な証拠が存在する場合にに分類されることがあることのみで、この1年の限定的な証拠」があることのみで、おり一に分類されることがある。一群の作用因子がグループ1又は2Aに分類されることがある。作用機序からみて明らかに同じ群に属する作用因子がでれることがある。

グループ2B:ヒトに対する発がん性の疑われる。 このカテゴリーには、ヒトにおいて「発がん性の限定的な証拠」がありると言葉験動物では「発がん性の十分な証拠」があると性の十分な証拠」があると性の十分な証拠」で、実験動物において「発がん性の十分な証拠」をある。で、おいては「発がん性の不十分な証拠」があるとは言えならにおいては「発がん性の十分な証拠」があるとは言えないのはおいては「発がん性の十分な証拠」があるとは言えないの関連データから支持することがある。にのカテゴリーに分類することもある。

グループ3:ヒトに対する発がん性について分類することがでまない。 このカテゴリーは、ヒトにおいて「発がん性の不十分な証拠」であり、実験動物において「発がん性の不十分な証拠」である場合に、最も一般的に使用される。 例外的に、ヒトにおいて「発がん性の不十分な証拠」でありに、実験動物では「発がん性の十分な証拠」があるが、実験動物では「発がん性の十分な証拠」があるが、実験動物における発がん性作用機序がヒトで機能しないことを示す強固ないある場合に、このカテゴリーに分類されるこのカテゴリーに分類する。

IARCモノグラフ PREAMBLE(抜粋)	IARCŦ	ノグラフ	PRFAME	3 I F	(抜 粋)
------------------------	-------	------	--------	-------	---------

評価区分の基準の主な内容

exposures are widespread or the cancer data are consistent with differing interpretations.

Group 4: The agent is probably not carcinogenic to humans.

This category is used for agents for which there is evidence suggesting lack of carcinogenicity in humans and in experimental animals. In some instances, agents for which there is inadequate evidence of carcinogenicity in humans but evidence suggesting lack of carcinogenicity in experimental animals, consistently and strongly supported by a broad range of mechanistic and other relevant data, may be classified in this group.

グループ4:ヒトに対しておそらく発がん性がない。 このカテゴリーは、ヒト及び実験動物において「発がん性がないことを示唆する証拠」がある場合に用いられる。ある場合には、ヒトにおいて「発がん性の不十分な証拠」で、実験動物においては「発がん性がないことを示唆する証拠」があり、広範な作用機序及び他の関連データによって、一貫して強力に支持されるときに、このカテゴリーに分類されることがある。

(2) 実験動物における証拠のカテゴリーの基準

IARCモノグラフ PREAMBLE (抜粋)

証拠のカテゴリーの基準の主な内容

(b) Carcinogenicity in experimental animals

Carcinogenicity in experimental animals can be evaluated using conventional bioassays, bioassays that employ genetically modified animals, and other in-vivo bioassays that focus on one or more of the critical stages of carcinogenesis. In the absence of data from conventional long-term bioassays or from assays with neoplasia as the end-point, consistently positive results in several models that address several stages in the multistage process of carcinogenesis should be considered in evaluating the degree of evidence of carcinogenicity in experimental animals.

The evidence relevant to carcinogenicity in experimental animals is classified into one of the following categories:

実験動物における発がん性 実験動物における発がん性は、従来の動物試験、遺伝子改変動物を用いた試験、その他の発がん現象の一つ以上のクリティカルな段階に焦点を当てた in vivo 試験を用いて評価することができる。伝統的な長期動物試験、スは腫瘍の発生をエンドポイントとした試験のデータがない場合、実験動物における発がん性の証拠の程度について検討したいるは、多段階発がん過程のいくつかの段階について検討したでくつかのモデルで得られた一貫した陽性の結果を考慮すべきのカテゴリーのいずれか一つに分類される。

Sufficient evidence of carcinogenicity: The Working Group considers that a causal relationship has been established between the agent and an increased incidence of malignant neoplasms or of an appropriate combination of benign and malignant neoplasms in (a) two or more species of animals or (b) two or more independent studies in one species carried out at different times or in different laboratories or under different protocols. An increased incidence of tumours in both sexes of a single species in a well-conducted study, ideally conducted under Good Laboratory Practices, can also provide sufficient evidence.

発がん性の十分な証拠 (a) 2種類以上の動物種、又は(b) 1種類の動物で異なる時期、異なる研究機関、又は異なるプロトコルで実施された2つ以上の独立した研究において、作用因子と、悪性腫瘍の発生率増加、又は良性腫瘍と悪性腫瘍の適切な組合せの発生率増加との間に因果関係が確立されたものと判断される場合。 適正に実施された試験研究(GLPで理想的に実施された試験)で、1種類の動物の雌雄両性で腫瘍発生率が増加した場合も「十分な証拠」となり得る。

IARCモノグラフ PREAMBLE (抜粋)	証拠のカテゴリーの基準の主な内容
A single study in one species and sex might be considered to provide <i>sufficient</i> evidence of carcinogenicity when malignant neoplasms occur to an unusual degree with regard to incidence, site, type of tumour or age at onset, or when there are strong findings of tumours at multiple sites.	1種類の動物の片方の性を用いた1例の研究であっても、悪性腫瘍が、発生率、部位、腫瘍の種類又は発生齢に関して、異常な程度で発生した場合、又は、複数部位で腫瘍に関する強固な所見がある場合は、「十分な証拠」と判断されることがある。
Limited evidence of carcinogenicity: The data suggest a carcinogenic effect but are limited for making a definitive evaluation because, e.g. (a) the evidence of carcinogenicity is restricted to a single experiment; (b) there are unresolved questions regarding the adequacy of the design, conduct or interpretation of the studies; (c) the agent increases the incidence only of benign neoplasms or lesions of uncertain neoplastic potential; or (d) the evidence of carcinogenicity is restricted to studies that demonstrate only promoting activity in a narrow range of tissues or organs.	発がん性の限定的な証拠 データから発がん作用が示唆されるが、例えば以下のような理由から、最終的評価を行うには限界がある場合。(a)発がん性の証拠が1例の試験に限られている。(b)試験の計画、実施又は解釈の妥当性に関して未解決な疑問が 存在する。(c)良性腫瘍のみ、又は、腫瘍形成の可能性が不明確な病変のみ の発生を増加させる。(d)発がん性の証拠が、狭い範囲の組織又は臓器におけるがんプ ロモーター作用のみを立証した研究に限られている。
Inadequate evidence of carcinogenicity: The studies cannot be interpreted as showing either the presence or absence of a carcinogenic effect because of major qualitative or quantitative limitations, or no data on cancer in experimental animals are available.	発がん性の不十分な証拠 大きな定性的又は定量的限界があるため、試験が発がん性の有無のいずれを示すものか判断できない。 または、実験動物におけるがんに関するデータが利用可能でない。
Evidence suggesting lack of carcinogenicity: Adequate studies involving at least two species are available which show that, within the limits of the tests used, the agent is not carcinogenic. A conclusion of evidence suggesting lack of carcinogenicity is inevitably limited to the species, tumour sites, age at exposure, and conditions and levels of exposure studied.	発がん性がないことを示唆する証拠 少なくとも2種類の動物種を用いた適切な研究がなされており、それらの試験条件の範囲内で発がん性でないことが示されている。 この結論は、検討した動物種、腫瘍部位、ばく露時の年齢、ばく露条件、及び濃度に必然的に限定される。